

令和5年 7月14日(金)

# 未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第162号

## 5円玉から学ぼう

支援部 西山 健一

今回は、社会科の授業を取り上げ、学習の様子を紹介致します。

3年生の社会では、6月の授業で5円玉を活用し、日本の産業について学習しました。買い物などで普段、使用している5円玉には何が描かれているのか、実物を手に取り、じっくりと観察して気づいたことをクラスで話し合いを行いました。

生徒からは、「麦みたいなものがある。」、「五円と書かれている後ろには線が入っている。」、「穴が開いている周りにギザギザした模様がある。」など時間をかけて観察することで5円玉に何か描かれているのか知ることができました。



稲穂 → 農業



海 → 漁業・水産業



歯車 → 工業



木の芽 → 林業

このように5円玉に描かれているデザインには農業、工業、漁業(水産業)、林業を表しており、これらは戦後の日本の復興を図るべく、産業の発展と人々の豊かな暮らしを願っての図案で構成されています。

また5円玉の材料は、戦争で使っていた薬きょう(火薬をつめる筒)をつぶして作られました。そこには今から78年前に日本が終戦を迎え、「これからは戦争をせず、日本の人々が平和に暮らせませすように」という願いがこめられています。

「産業」とは、「何かを産み出す仕事」、「人々が必要としているものを作り出して提供する活動」という意味があります。またお金の必要な経済活動を産業といい、家庭内のお手伝いは含みません。

5円玉に描かれているものは第1次産業にあたり、土を耕し、気温や天気などの自然に適した農作物を育て、海や川といった自然から魚などの漁を行うなど自然環境に働きかけて生産する仕事です。平成30年度の総務省統計局の調査によると現在、働いている人は約222万人で日本全体の3%です。

それから社会の変化とともに現在は日本全体の70%ほどの人々が第3次産業で働いています。(平成30年度 総務省統計局の調査)第3次産業に共通しているのは、人間や会社を相手にしている点で、生産や加工、製造ではなくて出荷する仕事やサービスを提供する仕事などがあります。そして3年生が6月の現場実習でお世話になった実習先もサービス業が多いことを授業の中で確認しました。

授業の後半では、「未来の5円玉づくり」をテーマに現代の産業や社会情勢をみつめ直し、「日本の人々がしあわせに暮らせませすように。」と願いをこめたデザインを考えました。

生徒の中には、「これから車の運転は自動運転になるかもしれないし、製品はロボットがつくる時代が来ると思うからロボットとかコンピュータみたいなデザインにしようか。」、「第1次産業で働いている人がこれだけ少ないから食べ物を大切にする絵を描いたらどうか。」、「日本だけではなく、世界中でゴミ問題や環境破壊があるからきれいな景色を描いたらいいと思う。」、「戦争はまだ世界で続いているので平和な世界をデザインしたらいいと思う。」という意見が出ました。また自分が高特を卒業後、社会に出て関わりたい仕事をデザインの中に組み入れる生徒もいました。

卒業後、時代の変化に合わせて社会人として生きていくためには課題に取り組む準備と経験の積み重ねが大切です。日々の生活や各教科、作業学習などから課題意識を持ち、課題解決に向けての取り組みの中で感じたことをさまざまな形で表現してほしいです。